

竹原市幼児教育・保育あり方検討委員会

第1回検討委員会 議事録

竹原市幼児教育・保育あり方検討委員会事務局

竹原市幼児教育・保育あり方検討事業
第1回検討委員会 議事録

日時：平成23年7月5日（火）18:30～20:30
場所：竹原市役所 3階第1・2委員会室
出席者：検討委員14名（欠席1名）
福祉課・教育振興課・（株）ぎょうせい担当者

【委員会次第】

- 1 開会
 - 2 市長挨拶
 - 3 委員長互選
 - 4 議題
- (1) 検討委員会の設置について
 - (2) 就学前施設の現状と課題について
 - (3) その他

1 開会

大宮福祉課長の進行で開会した。

2 市長挨拶

小坂市長が委員に対する謝辞を述べた後、検討委員会の趣旨説明をした。

国も竹原市も少子高齢化が課題となっており、子育て支援に力を入れている。竹原市では、第3子以降は3歳未満の保育料を無料にした。子育てニーズの多様化にも対応した施策に取り組んでいる。

3 委員長互選

まず、机上配布してある委員への委嘱状を見てもらい、それをもって正式に検討委員として委嘱をした。次に、大宮課長が一人ずつ所属と名前を読み上げる形で、検討委員15人の紹介をした。

その後、委員長の互選のために委員からの推薦を促した。七木田委員の指名があり、多数に承認されて、委員長となり、委員長席に移った。委員長が就任の挨拶をし、大学で幼児教育や保育を専門としていて、世の中でも適正配置についての議論が盛んであり、三次市や東広島市などの検討委員をしているという自己紹介をした。

続いて、市長より検討委員会への諮問があり、市長が諮問書を読み上げて七木田委員長に渡した。（市長退席）

検討委員会の設置要綱により、委員長が議長となる旨を確認し、これ以降は七木田委員長が進行した。そして、委員長が限られた時間の中で円滑な会議運営への協力を委員にお願いした。副委員長は、委員長の指名により、長岡委員を選任した。

議題に入る前に、検討委員会の全5回の日程を委員へのアンケートにより決定した結果を事務局が以下のように説明した。時間については、今回と同じ18:30から大丈夫かどうか委員に

確認をしたが、特に異論がなかったので 18:30 からとなった。

今後の検討委員会の日程

第2回：8月29日（月）

第3回：10月13日（木）

第4回：12月15日（木）

第5回：2月8日（水）

検討委員会の内容の公表について、以下のように取り扱うことになった。

- ・議事録は市HPで概要を公表。発言者の名前は伏せる
- ・委員会の傍聴は、委員の自由な発言を抑制するため行わない

4 議題

(1) 検討委員会の設置に関する説明

事務局福祉課井上子ども福祉室長が、配付した資料1について説明した。

- 資料1：1 委員名簿
2 委員会設置要綱
3 諮問書
4 竹原市総合計画・竹原市次世代育成支援地域行動計画の抜粋
5 委員会スケジュール
6 公立就学前施設の規模・配置に関する計画（仮称）のすすめ方（予定）

特に、6の答申後イメージ図で、今年度末までに委員会の結果を報告し、翌24年度に公立就学前施設の規模や配置に関する計画を策定し、25年度以降にこの計画に基づいた施設整備を行うことを説明した。

【質問1】24年度に策定する計画は「公立就学前施設」となっているが、今年度の検討委員会では、私立も含めて広くあり方を検討して良いのか

【回答:市】今回の目的はあくまでも公立に限っているが、施設の老朽化への対応など、私立にも共通する課題も出てくるので、私立も含めた委員会となっている。

(2) 就学前施設の現状と課題について

引き続き井上室長が、配付した資料2に基づいて説明し、質疑応答をした。

- 資料2：1 保育所制度の解説
2 幼稚園制度の解説
3 竹原市全体の児童数の推移（実績と将来推計）
4 小学校区別の児童数の推移（実績と将来推計）
5 保育所の年齢別児童数・児童数推移
6 幼稚園の年齢別児童数・児童数推移
7 保育所・幼稚園等の基礎情報
8 保育所・幼稚園等の保育サービス
9 保育所・幼稚園の地図

<以下、質疑応答の内容は議題別に整理して示す>

保育所・幼稚園・認定こども園について

【質問2】認定こども園について、市の考え方を聞きたい

【回答:市】今、国の方で制度的な検討が行われている最中だが、平成25年度から保育所は「総合施設」に移行し、幼稚園については移行することができるし幼稚園のままも可能にしてい

る。本委員会では、この法案が可決される前提で公立保育所・幼稚園とも「総合施設」に移行するものと仮定して規模と配置の議論をすすめたい。なお、公立幼稚園を総合施設に移行するかどうかについては、本委員会ではなく教育委員会において整理されるものと考えている。

【質問3】保育所と幼稚園の違いがよく分からない。はた目には入る年齢が違うようにしか見えていなかったが、目的が違うのか。教育という言葉が入っているのは幼稚園だけだが、保育所が預かるだけで教育をしていないわけではないだろう。実際は？

【回答:市】幼児教育は3歳以上と定められている。幼稚園は教育に特化した施設。保育所も中身はほぼ同じように行っているが、保育に欠ける児童しか入所できない点が大きく違う。「総合施設」になれば保育所も入所要件が緩和されるはず。

【回答:委員】端的に言うと、保育所は「養護」と「教育」の両方をやっている。

【回答:委員】最近幼稚園も預かり保育や3歳未満児保育をやるなど、両方が似てきている。

【質問4】幼稚園の総合施設化については、この場では議論をしないのか。少子化の中私立幼稚園も生き残りがかかっているのでは、気になっている。

【回答:議長】せっかくいろんな立場の人が集まり、総合的に議論できる機会なので、含めて議論をしてはどうか。

施設改修の時期について

【質問5】将来的な予定では、計画を立てて執行するのは平成25年度となっている。耐震の危険性がありながらもそれまで対処しないということなのか？ある保育所では施設の老朽化で雨漏りもある。

【回答:市】平成25年度までまったく改修に手をつけないというわけではない。屋根を塗り替えたり、新型インフルに対応した設備をつけたり営繕もしている。予算も限りがあるので100%できるとは言えないが、今入所中の子どもの保育環境整備も対応を図っている。

保育の質について

【質問6】ある保育所では、手遊びの上手な先生が来てから、周りの先生にも影響を与えて、子どもにビデオを見せる時間が減った。この委員会では、保育の質に関しても検討できないのか？

【回答:市】保育内容の改善も職員研修などで図っている。今はとりわけ発達障害児の対策に大学の協力も得て積極的に取り組んでいる。

【回答:委員】保育の質については、保育士の研修で向上を図っている。研修では若い人とベテランとの交流で、それぞれ得意なことを交換しながら研鑽している。もちろん、研修だけでなく、日々の保育の中でも取り組んでいるが、保護者の視点でのご意見もぜひ取り入れたい。

【回答:委員】保育の質については私立保育園も含めて市内10園で取り組んでいる。近年保育サービスの拡大で量の充実が求められる中、同時に質も向上させるため努力している。

【意見7】保育の質という点では、現場の保育士がこの委員会の場に少ないことは残念ではないか？

【回答:委員】 保育所は閉ざされた施設ではない。保護者など外部の意見も取り入れたいと考えている。この場で議論するだけでなく、ぜひ個別の所園に意見を伝えることもおすすめしたい。

公立と私立について

【議長】 児童数の推移についても資料が出ているが、これに関する意見はありませんか？

【意見 8】 少子化の現状は非常に厳しいものと認識している。今回は公立施設のあり方を検討するということだが、公立・私立関係なく検討させてほしい。民間をできるだけ活用し、民間で出来ないところを公立がカバーする方向にいくことを望む。しかし、保育施設の多様性は大事だと考えるので、公立も総合施設化することは妥当だと思うが。

集団の適正人数と地域への配慮について

【意見 9】 保育所の利用者は本当に子どもと保護者だけなのか？ 地域の人も利用者ではないのか？ 園外におさんぽで子どもを連れて出ると、地域のおじいちゃん、おばあちゃんも子どもの姿を見て元気になる。適正配置とは言うが、各地域に保育施設があるというのは地域にとって大切ではないか。

【回答:委員】 保育所の利用者は、広い意味では地域や高齢者等を含むが、一義的には子どもと保護者のものである。

【回答:議長】 子どもの声に高齢者が元気づけられるというのは大切なこと。子どもの多少に関わらず、地域に保育所を残して欲しいという意見ですね。

【回答:市】 各地域を大切にしなければならないとは考えるが、施設の老朽化で建て替えなど財政的には厳しい面もある。全くの理想論では今のままの配置で小規模化となるだろうが、これは財政的にかなり厳しい。

【回答:議長】 適正配置の上でも、地域的な配置については検討して欲しいということだと思うので、この視点については今後も検討していきましょう。

【意見 10】 園児が少なすぎる園では、集団の中での成長を期待できない現状がある。

【意見 11】 すべての地域に保育施設を残すか、ある程度の人数規模を確保して集約するのかは、保護者のニーズも聞いていく必要がある。

保幼小の連携について

【質問 12】 保育所と幼稚園の連携はやっているのか？

【回答:委員】 幼稚園の職員研修に公立保育所から参加させてもらっている。保育所と小学校との連携で言えば、同じ小学校に上がる2つの保育所が、年に一度遠足で小学校に行き交流している。

【回答:委員】 今、小学校と中学校の連携も進んでいる。研修などでの交流をもっとすすめて、様々な子どもたちへの対応に活かしていきたい。

【回答:市】 保育所、幼稚園と小学校の連携もしっかり進めていきたいと考えている。今は連携の例として、特別支援が必要な子どもについて就学指導委員会を開いているが、うまく連携が出来ていないと問題が生じることもある。

【質問:13】 保育所と幼稚園から入学した新入生に違いはあるのか？

【回答:委員】個人差があるので一概には言えない。傾向として、幼稚園卒の子どもが式での態度が良いとか、保育所の子どもが多い時はにぎやかだと感じることはある。そう大きな差はないが、多少はあるかもしれない。しかし、学校生活の規範をつくっていくので、最初の時点の差は分からなくなる。

【回答:委員】入学時の違いはあくまでも個性だと思う。子どもには順応性があり、それぞれ置かれた環境に応じた態度を取るようになる。

【質問 15】就学前に小さな集団で過ごしていた子が、大きい集団に就学するとどうか？

【回答:委員】最初は戸惑うが、子どもには適応能力があり、1ヶ月もたてばなじむことが多いし、そうなるように指導している。

【意見 16】就学前施設が地域の高齢者に支えてもらっているということは大切なことだが、子どもと保護者の思い以上に、地域の思いを優先させてはならないと思う。子どもは同年齢のある程度の集団があって育つと考えている。

【意見 17】就学前施設と地域とのつながりという面では、私の地域は公民館を中心として保育所とお年寄りの交流などよくやっている。先日もふれあいサロンで世代間交流をしながら一緒に七夕飾りをつくった。

必要な検討資料について

【意見 14】少人数で地域に残すか、集約して集団を大きくするか、未就園のこどもを持つ保護者も含めて、すべての保護者にアンケートをとればよいのではないか？

【回答:市】次世代支援地域行動計画を立てる際に、保護者に対してアンケートを取った。適正規模についての質問もあったが、回答数が少なかった。このアンケート結果についても、再度関連部分を見直して、保護者のニーズを把握し直したい。

【意見 18】次世代支援地域行動計画を立てる際のアンケートでは、子育て世代の親の働き方の実態がどうなっているのか分からない。竹原以外で就労している親がどの程度いるのかとか、共働きなのか扶養に入るのかという働き方の違いと就学前施設の利用のしかたなどを知りたいので、次回提示して欲しい。児童数の減少などネガティブな情報だけでなく、子育て世代向けに住宅メーカーが発信している地域情報など、ポジティブな情報もあれば良い。

まとめ（議長）

質疑応答での主な話題は以下の6点にまとめられる。

- ① 就学前施設の耐震化やメンテナンスについては、すべてを25年度以降に先送りするのではなく、必要に応じて営繕していく。
- ② 保育の質を確保することも重要で、今も様々な研修会をやっている。
- ③ 公と私の分担については、就学前施設の多様性にも配慮しなければいけないが、民間をしっかりと活用して欲しい。少子化の中、民業を圧迫しないあり方を検討すべき。
- ④ 保育所は子どもと保護者のものだけでなく、地域のものでもある。地域的な配置も検討していく必要がある。
- ⑤ 保幼小の連携は大切。研修や交流行事などにも取り組んでいる。
- ⑥ 次世代支援地域行動計画のアンケートで、保育ニーズの背景など関連する情報の再分析が必要。次世代のアンケートに限らず、関連データもより詳細に出して欲しい。

(閉会)